

教 科 工業(機械)
---------------

科目	3年実習 (機械科メカトロ工学)	(必修)	授業時数 履修学年	3 単位 3 学年
----	---------------------	------	--------------	--------------

目 標	機械技術に関する科目で習得した知識や能力を、基礎的な技術・技能による実際の作業を通して総合的に学習させ、今後の技術革新に主体的に対応できる能力を身に付けさせる。また、協調・責任・勤労など技術者として望ましい態度や習慣を身に付けることを目標とする。
-----	---

## ●学習内容

1 学期	3 0 時間	2 学期	4 5 時間	3 学期	3 0 時間
○実習 次の1から4の内容を10人一組で各内容、24時間行う。		3 NC (CAD/CAM)、電子回路 (ソレノイドエンジン部品の製作) ・CAD/CAMにより加工プログラムの作成とワイヤー放電加工機による加工 ・ボール盤作業(穴あけ) ・手仕上げ作業(ネジ立て) ・はんだ付けによる基板の製作	24	○組立 ・各パートで製作して部品を使用し、組立・調整をおこない、「ソレノイドエンジン」を完成させ動作確認をする。	9
1 旋盤Ⅲ (ソレノイドエンジン部品の製作) ・旋盤作業(外丸削り、段削り、穴あけ) ・ボール盤作業(穴あけ) ・手仕上げ作業	24	4 シーケンス制御Ⅲ ・技能検定シーケンス制御作業用の検定による制御実習 ・エアチャックを使用したシーケンス制御機器による制御実習 ・吸着パットを利用したシーケンス制御機器による制御実習	24		
2 フライス盤Ⅲ (ソレノイドエンジン部品の製作) ・フライス盤作業(側面削り、座ぐり) ・ボール盤作業(穴あけ) ・手仕上げ作業(ネジ立て)	24				

教材
教科書:「機械実習1・2」実教出版 自主作成教材(プリント・テキスト)

授業の進め方
実習の手順を理解し、自分の手足を動かし、実際に機械や器具を使って作業を行い、多くの科目に分けられている技術及びその科学的根拠を体験によって総合的に習得させる。また、機械技術者として望ましい態度や習慣を身に付けさせる。 ・1クラス4班編成で進める。 ・各テーマ、レポート作成を通して、内容の定着を図る。

## ●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付け説明できる。	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付け活用できる。	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	習得する	工業技術について工業のもつ社会	工業技術に関する課題を発	工業技術に関する広い視野をもつこと

	(わかる)	的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解している。	見し解決する力を身に付けている。	を目指して、協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法		課題における取り組み状況やレポートを含め総合的に評価する。		授業に取り組む姿勢や意欲を総合的に評価する。

## 単元別 評価規準

### 1 旋盤Ⅲ

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	旋盤について <b>原理及び機能を踏まえて理解</b> しているとともに、関連する技術を身に付け <b>説明</b> できる。	旋盤における加工方法の意味及び加工工程に着目して、旋盤に関する課題を見いだしているとともに <b>解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用</b> できる。	旋盤の加工について自ら学び、加工に関する適切な機械・工具の取扱いに <b>主体的</b> かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	旋盤について切削加工に関連する技術を身に付けている。	旋盤における加工方法の意味及び加工工程に着目して、材料の旋盤加工に関する課題に基づき説明できる。	旋盤の加工について、加工工程に関する適切な機械・工具の取扱いについて、協働的に取り組もうとしている。

### 2 フライス盤Ⅲ

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	フライス盤について <b>原理及び機能を踏まえて理解</b> しているとともに、関連する技術を身に付け <b>説明</b> できる。	フライス盤における加工方法の意味及び手仕上げの必要性に着目して、材料のフライス盤加工に関する課題を見いだしているとともに <b>解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用</b> できる。	フライス盤について自ら学び、加工・試験に関する適切な機械・工具の取扱いに <b>主体的</b> かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	フライス盤について関連する技術を身に付けている。	フライス盤における加工方法の意味及び手仕上げの必要性に着目して、材料の加工工程に関する課題に基づき説明できる。	フライス盤について、加工・試験に関する適切な機械・工具の取扱いについて、協働的に取り組もうとしている。

### 3 NC(CAD/CAM)、電子回路

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	NC(CAD/CAM)について <b>原理及び機能を踏まえて理解</b> しているとともに、関連する技術を身に付け <b>説明</b> できる。	NC(CAD/CAM)におけるプログラムの意味及び操作方法に着目して、数値制御工作機械に関する課題を見いだしているとともに <b>解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用</b> できる。	NC(CAD/CAM)について自ら学び、加工に関する適切な機械の取扱いに <b>主体的</b> かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	NC(CAD/CAM)について動作原理・プログラミングに関連する技術を身に付けている。	NC(CAD/CAM)におけるプログラムの意味及び操作方法に着目して、数値制御工作機械に関する課題に基づき説明できる。	NC(CAD/CAM)について、加工に関する適切なプログラムの取扱いについて、協働的に取り組もうとしている。

#### 4 シーケンス制御

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	シーケンス制御について <b>原理及び機能を踏まえて理解</b> しているとともに、関連する技術を身に付け <b>説明</b> できる。	シーケンス制御の意味及び試験方法に着目して、電子回路に関する課題を見いだしているとともに <b>解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用</b> できる。	シーケンス制御について自ら学び、電子回路に関する適切な機械・器具・試験結果の取扱いに <b>主体的</b> かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	シーケンス制御について関連する技術を身に付けている。	シーケンス制御の意味及び試験方法に着目して、電子回路に関する課題に基づき説明できる。	シーケンス制御に関する適切な機械・器具・試験結果の取扱いについて、協働的に取り組もうとしている。

#### 組立・調整

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	組立について <b>原理及び機能を踏まえて理解</b> しているとともに、関連する技術を身に付け <b>説明</b> できる。	組立における溶接の意味及び試験方法に着目して、溶接に関する課題を見いだしているとともに <b>解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し活用</b> できる。	組立について自ら学び、溶接に関する適切な機械・器具・試験結果の取扱いに <b>主体的</b> かつ協働的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	組立について関連する技術を身に付けている。	組立における溶接の意味及び試験方法に着目して、溶接に関する課題に基づき説明できる。	組立について、溶接に関する適切な機械・器具・試験結果の取扱いについて、協働的に取り組もうとしている。